

## 第1回子ども・子育て会議資料への質問等に対する回答

No.	資料番号	意見質問等	委員名	担当課	担当課コメント
1	4	人口ビジョンによる推計について推計元の資料を参照しますと、出生率は「過去の実績から合計特殊出生率の平均値(1.12)が期間中一定に推移すると仮定」とあります。合計特殊出生率の平均値(1.12)は、どのように計算されたのでしょうか？数値は東京都か小金井市なのか、過去何年に渡っての平均なのか、基準年はいつか、などご教授ください。	宗片委員	企画政策課	平成28年3月に策定した小金井市人口ビジョンにおける合計特殊出生率の設定については、小金井市が独自に算出した平成20年(2008年)から平成25年(2013年)の小金井市の実績の平均値(1.12)としておりました。この度、令和3年4月1日を基準人口とした時点修正については、全体的な人口推計の考え方を踏襲した上で、移動率など一部の条件を更新したものです。合計特殊出生率については、人口の増加とともにピークに近づいていると考えられることから、2060年までの推計条件は前回と同じ数値を設定しております。
2	4	のびゆくでは、小金井市の人口データをもとに近隣のマンション建設等も考慮して、地域性を踏まえた人口推計であると理解しています。一方、人口ビジョンは社人研をもとに全国や東京都のデータを利用してと推量しました。もしそうであれば、のびゆくの方が地域性を考慮した精度の高い人口推計と考えられますが、のびゆくの人口推計を人口ビジョンに置き換える理由は何でしょうか？	宗片委員	子育て支援課	小金井市の人口推計に係る業務は企画政策課が所管しておりますが、推計についてはNo.1のとおりです。令和2年3月に「のびゆくこどもプラン 小金井」を策定するに当たっては、人口推計がなかったことから独自に推計を行いました。令和3年5月に「小金井市人口ビジョン」が示されたことから、それに置き換えております。のびゆくこどもプラン(第2期)策定時には、近隣の大規模マンションの入居申し込みの初期に人口推計の検証をしたため、入居戸数に小金井市の平均世帯人数をかけて入居者数を試算し、それに児童人口の比率をかけた数字を上乗せ加算しました。それまでの児童人口の増加傾向から、試算できる限りで多めに見積もった数値となっています。人口ビジョンの数字は、令和3年4月時点での大規模マンションの入居済みの分が含まれておりますので、数値としてはより直近の状況を反映していると考えております。
3	4	のびゆくと人口ビジョンでどちらの方が推計精度が高いか検証は行っていますでしょうか？例えば、過去の小金井市の人口データを用いて、のびゆくと人口ビジョンの推計方法のどちらの方が推計精度が高いかを比較などすれば、どちらがより良い推計方法なのかを検証できると思われました。	宗片委員	子育て支援課	今回の小金井市人口ビジョンは令和3年5月に策定されていますが、前回(平成28年3月)の推計とはそもそも推計の仮定が異なります。推計精度の検証ということですが、今回の小金井市人口ビジョンは令和3年4月1日現在の人口を基に令和4年度以降を推計しており、まだ実績値は出ておりません。また、前回の人口推計は今回の人口推計と異なり、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」P55にも記載がありますが、「本市の将来人口は何も対策を講じなければ平成35年をピークに減少に転じ、2060年に99,800人になると推計しています。」とあるように、「何も対策を講じない」と仮定した場合の推計です。そのため、令和3年10月1日現在の本市の人口は124,646人であるところ、前回の人口ビジョンではピーク時(2023年)でも120,012人となっております。
4	4	コーホート変化率法について理解不足な部分がある上で質問してしまい申し訳ありませんが、どのようなことが加味されて、これほどの変更に至ったのでしょうか。	栗田委員	子育て支援課	推計に当たっては基準日を設定して行いますが、「のびゆくこどもプラン 小金井」(令和2年3月)は平成31年4月1日現在の人口、「小金井市人口ビジョン」は令和3年4月1日現在の人口となります。人口推計を行うに当たっては、出生率、移動率、生残率や特殊要因等を見込んで行いますが、それらは過去数年の平均等で算出するため、基準日が異なるとそれらも異なる値となります。また、特殊要因については、例えば前者においては令和2年度の約700戸のマンション建設等を別に見込んでいますが、後者においては既に令和3年4月1日現在の人口に実績値として含まれております。
5	6	【資料6】のびゆくこどもプラン 小金井(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)(令和4年3月改定案・抜粋)のp.44に「令和3年4月時点で41人」と記載があります。現時点での待機児童数を教えてください。途中入所等で待機児童数は増えてはいないでしょうか？	宗片委員	保育課	待機児童数については、国の通知に基づき、これまで年2回(4月1日現在と10月1日現在)、国に対して報告を行い、国や東京都の審査を受け確定するものですが、令和3年度より、10月1日現在の待機児童数の調査が廃止となったため、正式な数値はありません。しかしながら、毎月、その月に1歳を迎える児童の育児休業延長のための不承諾をもらうための申請が一定数ありますので、4月以降の待機児童数は増えていることは間違いありません。
6	6	新福祉会館の中に子ども家庭支援センターが移設するということでしょうか？その際、既存の保健センター内の子ども家庭支援センターはなくなるということでしょうか。	栗田委員	子ども家庭支援センター	お見込みのとおり、建設予定の(仮称)新福祉会館に子ども家庭支援センターを移設する計画となっております。移設後の保健センター跡地活用については、市の公共施設全体を鑑み、今後検討を行っていく予定です。
7	6	利用者支援専門員はこれまで配置されていなかったのでしょうか。配置することによるメリット(配置することで出来るようになること)はどのようなことでしょうか。	栗田委員	子ども家庭支援センター	子ども家庭支援センターでは、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、子育てに関する情報提供や関係機関との連携、調整を行っておりますが、現在、利用者支援専門員は配置しておりません。移設に合わせ、利用者支援専門員を配置する利用者支援事業を開始し、未就学児期の子どもと子育て家庭の支援の強化を図るとともに、他の利用者支援事業との連携など妊娠前から切れ目のない支援の充実が図れるものと考えています。

8	7	障がい等で特別な配慮が必要な子どもについて、量の見込みと確保に関する資料はありますでしょうか？行政が積極的に支援を行う対象となると考えますので、市内にどれだけ支援が必要な子どもがいて、受け入れが来ているのかが気になります。	宗片委員	保育課	特別な配慮が必要なお子さんにかかる定義がないため、市として事前に実数を把握することが難しく、当該保育ニーズについての予測が難しい状況です。 現状、入園相談及び入園申請をいただくことで、そのニーズ(個別の状況)を把握するほか、入所しやすい環境を整えるため、新設園での枠募集の実施などの取組を行っています。
9	7	量の見込みは児童数と利用意向率から算出されていますが、途中からの入所・入園については考慮されていますでしょうか？過去の統計から途中の入所・入園を見込んだ方が良いのではないかと思います。	宗片委員	保育課	年度途中の入所・入園についてですが、ニーズについて予測できる調査や統計等の資料はありません。 また、年度途中の入所の実績数を参考にするとしても、実績＝そのタイミングでの定員の空き状況(退園等に伴うものも含む。)に左右されますので、予測に活用するのも難しい状況です。
10	7	実際に認定こども園への移行を希望している幼稚園はあるのでしょうか。また、それは現実的なことなのでしょうか。以下は個人的な考えになりますが・・・令和2年度現況進捗状況の説明に、私立幼稚園の供給量の不足、とありますが、実際の各園の倍率等の細かいことはわかりませんが、市内の幼稚園が入れなかったから市外の幼稚園に入園した、という話は少なくとも私の周りでは聞きません(その逆はありました)。幼稚園希望のご家庭は、保育園希望のご家庭と比較すると、ある程度園を選べる状況だと思うので、あまりに遠くない限り(園バスもあるので)市外、市内といったことには拘らず、希望に沿った園を選んでいるかと思います。(教育方針や先生方の雰囲気、家からの近さ、給食の有無、子どもとの相性等)また、既に預かり保育がある幼稚園が多いので、仮に認定子ども園に移行するとすれば、もともと保育園希望のご家庭の方が入園を考えるのではないかと思います。	栗田委員	保育課	現在の市内私立幼稚園が認定こども園への移行を希望している状況はありません。  また、市内幼稚園を市外の方が利用する例もあるとおり、ご指摘のような視点で市外の幼稚園を選ばれる方々も一定数いらっしゃることはあるかと思いますが、これまでの子ども・子育て会議のご議論の中では、「市内に幼稚園が少ないために、選択肢が限られ、市街を選択している」との趣旨のご意見もあり、市としても特に市の北側に幼稚園が少ないことが課題となっていました。  そのような中、子ども・子育て支援新制度以降、幼稚園を開設する動きは見受けられないことから、市として幼稚園ニーズに応えるため、認定こども園新たに1園開設する計画となったところです。 貴重な御意見、ありがとうございました。
11	9	こちらの資料で何を議論する予定でしょうか？保育所の数を減らすことについての議論でしょうか？	宗片委員	保育課	公立保育園に関し、施設老朽化などから、市として方針案を定めたことについての報告となります。 前回の子ども・子育て会議でも御報告しており、その後、方針案も修正を行いましたことから、改めて報告させていただくものとなります。
12	9	既に出ている話でしたら申し訳ありませんが、くりのみ、さくらが廃園となる令和10年には、小金井保育園もほぼ同等の築年数となりますが、こちらに関しては今後どうするか決まってるのでしょうか。	栗田委員	保育課	現在、小金井保育園の築年数経過に対する具体の対応は決まっておりません。 小金井保育園については集会施設との複合施設となっておりますので、建物に関する具体的な今後の対応については、今後、関係課とも協議していく予定です。
13	参考資料	事故が起きにくいような→事故が起きないようなまちづくり、事故が起きないまちづくりと、断言することは難しいでしょうか？	栗田委員	子育て支援課	誠に申し訳ありませんが、本件は報告となります。経過としては、前期の子ども・子育て会議において、子どもの居場所部会を設置し、令和3年8月9日付けで小金井市子ども・子育て会議会長から小金井市長宛てに「子どもの居場所部会審議内容の報告について」が提出され、令和3年9月15日付けでその報告を尊重する形で定めたものとなります。また、事故が起きる要因をすべて排除できる施策はないため、このように記載しております。